

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 2 日現在

機関番号：10102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25381158

研究課題名(和文) 小学校教員養成課程における音楽指導力向上のためのプログラム・モデルの構築

研究課題名(英文) Developing the Program Model for Improvement of Teaching Ability of Music in Teacher Training

研究代表者

中西 紗織 (Nakanishi, Saori)

北海道教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：20584163

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)： 教員養成課程の学生の音楽指導力向上と日本伝統音楽・伝統芸能や西洋芸術文化との比較考察から導き出される広い視野や思考力、洞察力を身につけることを目的として体験学習を行った。体験学習の受講学生たちを対象として、事前・事後学習、レポート課題、振り返りのディスカッション、アンケート調査、聴き取り調査を行った。その結果、次のような力を高める成果を得た。音楽や芸術の行われる場における創造的活動、それを伝えることについて自分の言葉で語る、美術や音楽の歴史の根底を支える背景や思想、精神について理解を深める、本物の鑑賞を通して「表現」と「鑑賞」の間を生き生きと結び、東西の文化の交流について知る。

研究成果の概要(英文)： Effective results were gained through the experiential learning on comparative study of traditional Japanese performing arts and western music for the students of teacher training course to improve teaching ability of music. Students went through before-after study, written assignments, discussion of reflection, questionnaire survey and interview. As a result, they developed their abilities of explaining how the creative activities are carried out and handed down by their own words, understanding the background and spirituality which support the basis of art and music, connecting the activities of expression and appreciation more vividly, and having a greater understanding of exchanges of East and West.

研究分野：音楽教育学、音楽学

 キーワード：教員養成課程、音楽指導力向上、体験的学習、伝統音楽・伝統芸能の継承、実演家と大学教員の連携
 本物の中で学ぶ

1. 研究開始当初の背景

(1) 1998年告示の学習指導要領改訂以来、中学校の学習指導要領音楽編には、3年間を通じて1種類以上の和楽器を用いるようにと記され、小学校においても和楽器や伝統芸能を取り扱った授業が一層増えつつある。しかし、教師自身が日本の音楽を指導するのは困難であり、実演家を学校教育の場に招いて指導を受けても、実演家が伝えてきた方法や内容の本質から離れてしまうおそれもあり、実演家のフィールドに足を踏み入れて初めて体験できる学びもある(生田久美子は『「わざ」から知る』(1987)(東京大学出版会)の中でこのプロセスを「世界への潜入」と呼んでいる)。そこで本研究では、学生が実演家から直接学ぶとともに、学生が実演家のフィールド(稽古場)や本来の活動の場を訪れ、自らの体験を通して学びを深めることを重視した。

(2) 日本教育心理学会第50回総会(2008)における自主シンポジウム(話題提供者:中西紗織、山原麻紀子、石橋健太郎、指定討論者:佐藤公治、山下薫子、企画・話題提供者:横地早和子)で『本物』の中で学ぶ—芸術教育における学びの意味と可能性—というテーマで研究発表を行った際、能において「本物」の中で学ぶこと、すなわち能の「わざ」が伝承されているまさにその場に身を置き、師匠と弟子という関係の中で「わざ」が伝わることの重要性について述べた。また、能の「わざ」の習得に関する研究において、学習者の学習プロセスが自然と自発的に次の段階へと進んでいくプロセスを「流れ」という概念によって説明し、「流れ」が生じる重要性についても論じてきた(中西紗織「能における『わざ』の習得に関する研究—事例分析からの学習プログラムの開発を通して—」2007年度東京藝術大学博士学位論文、中西紗織(2010)「能における『わざ』の習得—『流れ』が生じるプロセスに着目して—」釧路論集:北海道教育大学釧路校研究紀要第42号、など)。

(3) 教員養成課程の学生を対象として、音楽指導力向上のための体験学習を行った。実演家から直接指導を受けただけでなく実演家のフィールドを訪れることで、学習したことの一つ一つが繋がりをもちながら学習者の中で再構成され、学びの意味の再認識につながるという成果を得た。

以上の背景に基づき、学習プログラム・モデルの構築・試行・再構築を目指した。

2. 研究の目的

大学の教員養成課程における音楽の実技に関する指導では、主に声楽やピアノの技術習得に関するものが集中的に取り上げられることが多い。本研究では音楽の実技をより広い総合的な能力として捉えており、声の表現でも、例えば能楽における謡はどのように表現されるかということを考えて、音楽実技の表現の多様性を捉え直し、指導力に結びつけることを目指した。音楽の実技は、単に楽器や声による演奏に限ったことではなく、身体表現や音楽に自然に反応する身体の動きに関すること(舞踊・演技・身体操法など)にも深く関連する。小学校において音楽科の授業を行う場合、教師の学習歴に個人差があることが主な原因となって指導に支障や限界が生じたり、学校という場の時間や場所の制限によって授業で取り扱う音楽本来のあり方から離れた方法で伝えられたりすることも見られる。本研究は、音楽教育の視点から「声」「身体」「伝えるプロセス」に焦点をあて、日本の伝統芸能・伝統音楽の教授・学習本来のあり方や伝承法も含めて身につけるための方法を探るものである。そのために実演家と大学教員がそれぞれの役割を生かし協力連携してプログラム・モデルを構築することを目的とした。

3. 研究の方法

本研究は次の方法によって行った。

(1) 文献調査による理論的枠組みの検討

音楽教育、日本の伝統芸能、日本の伝統音楽、音楽科授業実践、芸術表現、演劇教育などに関する文献調査を行い、ここから得られたものを理論的根拠として、プログラム・モデル全体の構想の基盤とした。

(2) 伝統芸能・伝統音楽に関する学生の実態調査

受講対象としての学生の音楽能力や伝統芸能・伝統音楽に関する経験の実態を調査・把握するための調査を行った。具体的には、事前・事後学習におけるディスカッション、質問用紙によるアンケート調査、聞き取り調査等。ここから、学生の実態を考慮した講座内容を検討し、体験講座の再構築の方向性を探ったり、どのような活動を新たに組み込んだりするか検討した。

(3) 実演家との連携による体験講座の計画と実施

実演家から直接学ぶ、実演家のフィールド訪問

実演家と綿密な打ち合わせを行い、学生の実態に沿った講座内容を検討し、それぞれの活動のプログラム・モデルの全体の中での意味と方向性を検討した。

(4) 体験講座の結果分析

事前事後学習の見直し、記録分析、アンケート調査、振り返りとディスカッション

体験講座の映像記録や音源記録のテープおこしと見直しを行い、そこから新たに捉え直すことができることについて再検討、再確

認した。また受講学生を対象としたアンケート結果を分析し、事後学習における振り返りとディスカッションの内容も再検討した。

(5)(1)~(4)に基づく体験学習の見直し

以上に基づいて、体験学習の目的、内容、効果について再検討し、プログラム・モデルを修正し、修正プログラムを実施した結果を、さらに再検討した。

(6)プログラム・モデルの再検討・再構築

以上(1)~(5)を踏まえて、プログラム・モデルのさらなる再検討と再構築を行った。

4. 研究成果

先述の研究方法により、音楽実技において「声」「身体」「伝えるプロセス」を音楽指導力に結びつく鍵概念として捉える、実演家から直接学ぶと同時に実演家のフィールドを学習者が訪問して「世界への潜入」のプロセスの重要性を体験する、実演家と大学教員が協力連携してよりよいプログラム・モデルを構築する、「『本物』の中で学ぶこと」と「『流れ』が自ずから生じること」を重視する、という四つの指針に基づきプログラム・モデルの構築を導く体験学習を行った。その結果、小学校教員養成課程に学ぶ学生たちが未来に向かって独自の目的や展望をもって音楽指導力向上を志向し続ける力を身につけることができ、指導力に結びつく次の五点の成果を得ることができた。音楽や芸術の行われる場（例えば舞台空間）そこでの人間の創造的活動、それを伝えることについて実際の体験を通して考えることができる、西洋の美術や音楽の根底を支える背景や思想、精神について理解を深める、本物を鑑賞することで「表現」と「鑑賞」の間をより生き生きと結ぶことを考えることができる、西洋と日本の芸術表現に関する比較の視点を持つことができる、東西の芸術文化の交流について理解することができる。

さらに、体験学習に関する学生の振り返りとディスカッション、事後指導、記述レポート課題、アンケート、聞き取りを通して、このような体験学習を継続的に行う意義についても再確認することができた。今後もさらにプログラム・モデルの実施と再検討、再構築を継続して行っていく。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計7件)

中西紗織、能における「わざ」の習得と指導言語 稽古の場で用いられる「わざ言語」に着目して、比喩的な指導言語による感覚の共有と「わざ」の学びモデルの構築、基盤研究(B)2012~2015 年度最終報告書、査読無、2016、pp.39 - 51。

中西紗織、教員養成課程における能の指導に関する研究 声と身体に焦点をあてた体験学習の意義と可能性、全国大学音楽教育学会創立30周年記念誌(研究紀要第26号合併号) 査読有、2015、pp.93 - 102。

中西紗織、教員養成課程における能の学習プログラムの構築 学生の活動とアンケートにおける声と身体に着目して—、釧路論集：北海道教育大学釧路校研究紀要、査読無、第47号、2015、pp.97 - 106。

オープンアクセス予定

佐々木幸、中西紗織、福田隆真、シンガポールの芸術振興政策と芸術教育 School of the Arts Singapore の例、北海道教育大学紀要(教育科学編)、査読無、第65巻第1号、2014、pp.73 - 88。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/7525>

中西紗織、歌唱活動における声のふるまい 調音・語感・唱歌による表現の可能性、釧路論集：北海道教育大学釧路校研究紀要、査読無、第46号、2014、pp.145 - 151。
<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/7740>

中西紗織、世阿弥の伝書に見える「声」に関する一考察 一調、二機、三声に焦点をあてて、釧路論集：北海道教育大学釧路校研究紀要、査読無、第45号、2013、pp.99 - 105。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/7302>

中西紗織、能の稽古における指導言語に関する研究 「わざ言語」を手がかりとして、北海道教育大学紀要(教育科学編)、査読無、第64巻第1号、2013、pp.111 - 119。
<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/6934>

〔学会発表〕(計5件)

中西紗織、教員養成課程における能の指導に関する研究 声と身体に焦点をあてた体験学習の意味 A Study on Teaching Noh in Teacher Training: Significance of Experiential Learning Focused on Voice and Body、6th Pacific Rim Conference on Education、2015年11月18日、Faculty of Education、Burapha University、Thailand チョンプリ(タイ)。

中西紗織、川島裕子、教師の「声」の教育実践—演劇的手法によるコミュニケーション教育として—、第3回「教師教育と演劇的手法」研究会、2015年10月11日、北海道教育大学旭川校。

中西紗織、教員養成課程における能の指導に関する研究 学生の活動とアンケートにおける声と身体に着目して、平成27年度日本音楽教育学会北海道地区例会、2015年8月2日、北海道教育大学札幌駅前サテライト。

中西紗織、シンガポールのSOTAにおける芸術教育—演劇コースの授業に着目して—、平成26年度日本音楽教育学会北海道地区例会、2014年8月2日、北海道教育大学旭川校。

中西紗織、能の稽古において能楽師が用い

る指導言語の役割と効果 「わざ言語」を
手がかりとして Role and Effect of
Language Used by Noh Masters in Noh
Lessons: Implication of “Waza Gengo”、国際
セミナー わざ言語：思考と身体、知と教育
における関係性の再考 Waza gengo: mente,
corpo, conoscenza e relazione educativa:
Scambi fra tradizioni d’Oriente ed
esperienze innovative d’Occidente, 2013年
11月6日、The Department of the Education
Sciences, University of Bologna, Italy ポロ
ーニャ（イタリア）

〔図書〕（計0件）

〔産業財産権〕
出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中西 紗織 (NAKANISHI, Saori)
北海道教育大学教育学部 (釧路校)・准教
授
研究者番号：20584163